

問1 17世紀から19世紀にかけてのインドの統治体制の変遷について述べた文として、歴史的事実に基づき最も適切なものを選びなさい。（2023年 三重公立入試 類似）

- 1857年のインド大反乱を鎮圧したイギリスは、東インド会社を解散させ、政府による直接支配を開始した。
- イギリスは産業革命の進展に伴い、当初から東インド会社を介さずイギリス政府が直接インドを統治した。
- インド大反乱が発生したことで、イギリス政府は統治権をすべて東インド会社に委ねる方針に転換した。
- イギリスはプラッシーの戦いに勝利した直後から、インド皇帝を廃止してイギリス国王による直接統治を行った。

問2 日米修好通商条約に含まれる「関税自主権の欠如」が、当時の日本に与えた影響やその仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 鳥取公立入試 類似）

- 自国の判断で輸入品に高い税率をかけることができず、安価な外国製品の流入から国内産業を守ることが難しくなった
- 外国政府が日本の輸出額を自由に管理できるようになり、日本国内の物資が極端に不足する事態を招いた
- 日本に入港するすべての外国船から徴収する税金をアメリカに支払う義務が生じ、国家財政が破綻した
- 日本国内で流通する貨幣の発行権を外国に譲り渡すことになり、幕府が経済政策を主導できなくなった

問3 1857年に発生したインド大反乱を鎮圧し、同時期の日本において、幕府と安政の五カ国条約を締結した欧米列強の一つとして正しい国名を選びなさい。（2026年 山形公立入試 類似）

- イギリス
- アメリカ
- ロシア
- フランス

問4 産業革命は人々の生活に豊かさをもたらした一方で、急速な都市化に伴う深刻な社会問題も引き起こしました。当時のイギリスの工業都市で発生した社会問題の説明として、適切なものはどれですか。（2023年 大分県公立入試 類似）

- 労働者が集中したことによる住宅不足や、不衛生な環境による生活環境の悪化
- 農村部での労働力不足により、国内の食料自給率が極端に高まりすぎたこと
- 工場での生産が過剰になり、すべての製品が売れ残って都市が廃墟化したこと
- 都市部の地価が高騰しすぎて、すべての工場が再び農村部へ移転したこと

問5 19世紀、イギリスは自国の綿織物をインドへ、インドで作らせたアヘンを清へ輸出させる「三角貿易」の仕組みを築きました。この貿易構造が当時の清にもたらした経済的な影響として最も適切な説明を選びなさい。（2026年 高知公立入試 類似）

- アヘンの輸入代金として、清国内の銀が国外へ大量に流出した
- イギリスへの茶の輸出が急増したことで、清国内に大量の銀が流入した
- インドから安価な綿織物が流入したことで、清の国内綿産業が飛躍的に発展した
- イギリスから最新の工業製品が直接持ち込まれ、清の産業の近代化が急速に進んだ

問6 南北戦争において、リンカン大統領が率いる北部の勢力が掲げていた、社会制度および経済政策の方針として適切なものはどれですか。（2020年 三重公立入試 類似）

- 奴隷制の拡大に反対し、国内の工業を発展させるために保護貿易を主張した。
- 奴隷制を維持することで農業生産力を高め、自由貿易によって海外へ輸出することを主張した。
- 奴隷制を全面的に容認し、イギリスとの同盟を深めるために自由貿易を推進した。
- 奴隷制の廃止を掲げる一方で、経済面では海外製品を広く受け入れる自由貿易を求めた。

問7 19世紀のアメリカ合衆国では、奴隷制の拡大をめぐる国内が二分される南北戦争が起こりました。この戦争中の激戦地であったゲティスバーグにおいて、「人民の、人民による、人民のための政治」という演説を行い、近代民主主義の理想を説いた人物は誰ですか。（2026年 奈良公立入試 類似）

- リンカーン
- ワシントン
- ジェファーソン
- ルーズベルト

問8 幕末の1867年、社会情勢が不安定化する中で「ええじゃないか」と叫びながら群衆が熱狂的に踊るなどの騒動が各地で起こりました。このような混乱が続く中、江戸幕府の第十五代将軍である徳川慶喜が行った、政権を朝廷に返上する出来事を何と呼びますか。（2026年 千葉公立入試 類似）

- 大政奉還
- 版籍奉還
- 廃藩置県
- 王政復古の大号令

答え合わせ・解説

問1	答え 1 1857年のインド大反乱を鎮圧したイギリスは、東インド会社を解散させ、政府による直接支配を開始した。	イギリスは当初、東インド会社を通じてインドの貿易や統治を行っていましたが、1857年に発生したインド大反乱（セポイの乱）をきっかけに、会社による統治の限界が露呈しました。反乱を鎮圧したイギリス政府は、翌年に東インド会社を解散し、イギリス国王がインド皇帝を兼ねる形で直接支配を行う体制（インド帝国）へと移行しました。
問2	答え 1 自国の判断で輸入品に高い税率をかけることができず、安価な外国製品の流入から国内産業を守ることが難しくなった	関税自主権がない状態とは、輸入品にかかる税率（関税）を相手国との協議で決めなければならない、あるいは相手国の意向に従わなければならない状況を指します。これにより、イギリスやアメリカから安価な綿製品などが大量に流入した際、高い関税をかけて防ぐことができず、日本の伝統的な手工業が大きな打撃を受ける要因となりました。
問3	答え 1 イギリス	1857年のインド大反乱を武力で鎮圧したイギリスは、その後インドを直接統治下に置くなど、アジアへの進出を加速させました。日本に対しては、1858年にアメリカ、オランダ、ロシア、フランスとともに安政の五カ国条約（日英修好通商条約など）を締結し、不平等な条件での貿易を開始させました。
問4	答え 1 労働者が集中したことによる住宅不足や、不衛生な環境による生活環境の悪化	仕事を求めて多くの労働者が都市部に流入したため、急激な人口増加に都市の整備が追いつかず、深刻な住宅不足が発生しました。また、煙突から出る煙による大気汚染や、排水による水質汚濁といった生活環境の悪化は、当時の社会に大きな影響を与えました。
問5	答え 1 アヘンの輸入代金として、清国内の銀が国外へ大量に流出した	18世紀までのイギリスは、清から茶を大量に輸入する一方で、清へ売ることがないため大幅な貿易赤字となり、代金として多額の銀が清へ流出していました。この状況を打開するため、イギリスは植民地であるインドでアヘンを栽培させ、それを清へ密輸して代わりの銀を回収する仕組み（三角貿易）を構築しました。その結果、清では銀が不足して地価や税負担が上昇し、経済が混乱するとともにアヘン中毒者の増大が深刻な社会問題となりました。
問6	答え 1 奴隷制の拡大に反対し、国内の工業を発展させるために保護貿易を主張した。	北部は資本主義的な工業化が進んでおり、自国の未熟な産業を保護するために高い関税をかける保護貿易を必要としていました。また、自由な労働力を確保する観点からも奴隷制には反対の立場をとっていました。一方の南部は農業中心で、奴隷制の維持と自由貿易を求めていたため、これらの方針の違いが激しい対立を生み出しました。
問7	答え 1 リンカーン	南北戦争のさなかにリンカーン大統領が行ったゲティスバーグ演説は、戦没者を追悼するとともに、民主主義の本質を簡潔に表現したものとして世界的に知られています。彼は奴隷制の廃止を主張し、分断された国家を民主主義のもとに再統合することを目指しました。
問8	答え 1 大政奉還	徳川慶喜は、倒幕派による武力行使を避けるとともに、政権を朝廷に返上した後も徳川家が有力な政治勢力として残ることを狙って大政奉還を行いました。「ええじゃないか」の流行に象徴されるような当時の社会不安は、幕府の権威が失墜していた背景を物語っています。紛らわしい用語である「版籍奉還」は明治維新後に藩主が土地と人民を天皇に返したことを指し、「廃藩置県」は藩を廃止して県を置いた政策を指します。